

令和4年度 各技術部会共通見学会 三菱電機本社「X Center（クロスセンター）」見学記

- 1.開催日：令和4年2月28日（火）抵抗、3月2日（木）赤外線、3月8日（水）アーク・プラズマ、
3月9日（木）ヒートポンプ、3月15日（水）誘導、3月23日（木）電磁波
- 2.見学場所：三菱電機株式会社 本社26階 展示施設「X Center（クロスセンター）」
- 3.説明者：三菱電機「X Center」説明員（各回1名）
- 4.出席者：抵抗9名、赤外線8名、アーク・プラズマ3名、ヒートポンプ17名、誘導16名、電磁波5名（事務局除く）
- 5.概要

コロナ禍で中断していた「リアル」の見学会を約3年ぶりに開催。三菱電機が約1年前に本社ビル26階に開設した新展示施設「X Center（クロスセンター）」の見学会を、令和4年度第4回目（最終）の各技術部会当日、約50分間で実施した。

同施設は、DX・スマートシティを推進する企業や国・地方自治体などの関係者に同社の技術・製品を体感いただき、スマートシティ実現を目指した共創を推進してゆくことを目的に、2021年12月に開設されたもの。完成品の展示だけでなく開発中、実証実験中の商品もご覧いただくなど、委員の皆様には少し先の未来社会を体感いただいた。

展示エリアの見学に先立ち、エントランスの大型映像装置で施設紹介動画を視聴（画像1）。その後、4テーマ

（ACCESSIBILITY、SUSTAINABILITY、RESILIENCY、DIVERSITY）に分けられた展示エリアに移動し、各展示の説明を受けた。

最初の展示はACCESSIBILITYをテーマにした「オンデマンド自動運転管制サービス」の1人乗り自動走行車と、ドップラーライダーによる風の状態予測を活用する「風況データソリューション」。風況データは2025年大阪・関西万博での「空飛ぶクルマ」有人飛行実現に向けた実証実験に活用されているとのこと。



画像1 エントランスの大型映像装置



画像2 用途が異なる2台のロボットの協働作業

次はSUSTAINABILITYをテーマとした「AIチャットボット」による社内業務の効率化と、用途が異なる「2台のロボット」による飲食店を想定した食器回収、仕分け作業の実演（画像2）。各ロボットに搭載されたカメラでお互いの位置を確認しながら実施する丁寧な作業でした。続いてRESILIENCYをテーマにした「AI配筋検査端末」の実演。建設現場において鉄筋径とその間隔などを計測する配筋検査の作業時間と手間、作業人数を大幅削減するタブレット端末のデモンストレーションを体感した。最後はDIVERSITYをテーマに、介護施設などにおける「赤外線センサーMeDIR（メルダー）」

を活用したソリューションの紹介。顔などの個人情報判別できない高画素の熱画像により施設職員が各室内における入居者の行動をリモートで把握。異常検知時は各職員のスマホにアラームと映像が届くなど、職員の巡回業務負担を大幅軽減する提案であった。

今回はコロナ前以来の「リアル」見学会であったが、場所が東京駅より徒歩5分程度の好ロケーションだったこともあり、各技術部会ともここ数年来最多の参加人数となった。また、技術部会終了後の懇親会も大いに盛り上がり、いよいよ日常が戻りつつあることを感じるようになった。

注）各画像は、三菱電機様ご了承の上でWEBサイトに掲載されているものを使用しております。